

第4回 日本視機能看護学会会員情報交換会報告

- テーマ：新型コロナウイルス感染防止対策の現状と課題について
- 日時：2021年4月3日（土） 14：00～15：10
- 方法：ZOOMによる意見交換会
- 参加人数：9名（日本視機能看護学会役員含む）
- アソバイザー：福井県済生会病院感染管理認定看護師の細田清美先生



今回も、HAICS協力者でもあり、福井県済生会病院感染管理認定看護師の細田清美先生
ご参加頂き有意義なZOOM意見交換会となりました。

第1回目とは違う施設の方のご参加による意見交換会となりました。

前回に話題となった外来、入院患者さんのスクリーニングについて、どのタイミングでスクリーニングを行うか、コロナウイルスの検査対象者の選定について周術期患者さんすべてか全身麻酔の患者さんに行うのかなど、より詳細な質問もありました。飛沫感染対策としては、全員常時フェイスシールドを活用するのか、飛沫感染対策を考慮した場面でを行うのかなど、基本的な必要性はわかっているが他の施設はどこまで行っているかという問いかけとなりました。他施設の方はもちろん、細田先生より各施設での環境や体制によっても飛沫感染、接触感染のリスクは異なるため、細かい対策については、基本を考えながら対応していくを念頭におき、感染対策を継続していく旨ご教授頂きました。

今後もコロナウイルス感染対策は継続的に必要となっており、感染者数も再び増加している地域もあり、医療従事者は特に濃厚接触を回避するための生活の制限を考慮している施設も多く、それに伴うメンタル面のサポートも重要となってきました。感染患者さんの受け入れ施設においては医療従事者の皆様は、より厳しい環境であることを踏まえ、今回は、当学会の大音名誉理事長より東京管理者会でのコロナウイルス感染者対応を行っている施設の方からの現場の状況について共有して頂きました。現場対応をされている看護師の皆様は、使命感をもって、ご自身が感染しないための対策もしっかり講じながら対応されているとの事でした。また、感染者受け入れ施設においては、感染病棟にマンパワーがとられることで一般病棟への負担が大きい状況との事でした。そういった状況も考えながら、医療機関では今後もクラスター発生を防ぐための日々の感染対策が重要であることを再認識いたしました。

